

平成27年度 学校運営連絡協議会実施報告書

平成28年3月31日

1 組織

- (1) 都立山崎高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成…教務主幹教諭（教務主任兼務）＝事務局長、生活指導養護主幹教諭（生徒部・保健部主任兼務）、進路指導主幹教諭（進路部主任兼務）、3学年主幹教諭、2学年主幹教諭 計5名
- (3) 内部委員の構成…副校長、経営企画室長、教務主幹教諭（教務主任兼務）、生活指導養護主幹教諭（生徒部主任兼務）、進路指導主幹教諭（進路部主任兼務）、総務部主任教諭（総務部主任兼務）、3学年主幹教諭、2学年主幹教諭、1学年主任教諭 計9名
- (4) 協議委員の構成…青少年健全育成委員会会長、地域ボランティア委員、町田・中ロータリークラブ会長、町田市教育委員会指導主事、町田消防署忠生出張所長、学識経験者（大学職員）、同窓会代表者、PTA会長、近隣中学校長 計9名

2 平成27年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（全3回）の開催日時・出席者・内容・その他
 - 第1回 平成27年6月25日（木）内部委員9名、協議委員7名
 - ・授業公開、協議委員委嘱、紹介、内部委員の紹介、学校経営計画、平成26年度学校評価報告書、昨年度の学校運営連絡協議会の課題、本校の現状と課題等説明、意見交換
 - 第2回 平成27年11月19日（木）内部委員9名、協議委員6名
 - ・授業公開、これまでの教育活動に関する報告、協議委員からの教育活動に対する意見、学校評価の実施目的・今年度の方針、学校評価の内容検討、協議、意見交換
 - 第3回 平成28年2月19日（金）内部委員9名、協議委員6名
 - ・授業公開、これまでの教育活動に関する報告、学校評価の報告及び学校運営に関する意見、次年度に向けた取り組み課題の協議等
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 平成27年6月25日（木）内部委員1名、協議委員2名
 - ・学校評価の基本方針の確認、昨年度の学校評価実施方法の課題、今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 平成27年11月19日（木）内部委員1名、協議委員2名
 - ・今年度の学校評価の観点・項目、内容の検討、実施時期の検討
 - 第3回 平成28年2月19日（金）内部委員1名、協議委員2名
 - ・アンケート集計結果の分析・考察、課題の整理、学校評価報告書の検討

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・回答者数

12月	全校生徒	692人	回答者	671人	（回収率 96.9%）
12月	保護者全員	692人	回答者	584人	（回収率 84.4%）
12月	地域住民	220人	回答者	60人	（回収率 27.2%）
12月	教職員	46人	回答者	46人	（回収率 100%）
- (3) 主な評価項目
学校全体、学習指導、進路指導、生活指導、特別活動、開かれた学校づくり等
- (4) 評価結果の概要（学校及び校長への意見・提言内容）
 - ア 学習内容について
 - (1) 学習時間
経営計画において、生徒の学校以外で学習する時間の目標を「1日30分以上学習する生徒30%、考査期間中85%以上」としている。考査期間中においては1年生91%ととなり目標が達

成されたが、2年生、3年生においては達成されなかった。しかし学校以外での学習時間0分という生徒が調査期間以外では全体で46%（1年生37%、2年生47%、3年生54%）であったが、昨年度は全体で54%であったので改善されている。3年生が学習しなくなる傾向にあるがアンケート実施時期が3年生の多くの生徒が進路を決定した12月であったことがその一因であると推測できる。

また、各学年で日常的に補習や個別指導が放課後に行われており、授業時間外に校内で学習する生徒も一定数存在する。

(2) 読書活動の推進

月に2冊以上の本を読む生徒は1年生20%、2年生17%、3年生17%。1冊も読まない生徒は1年生57%、2年生66%、3年生61%であった。

また、1か月に4冊以上読む生徒は1年生6%、2年生9%、3年生2%であった。国語授業では、味見読書等や図書委員会が主催するビブリオバトル等の啓発活動をより一層推進する必要がある。

(3) 授業改善

「わかりやすい授業75%以上」の数値目標に対し1年生70%、2年生62%、3年生72%が「わかりやすい」と回答している。前年に比較し3年生は多少の改善が見られたが1年生2年生においては目標値を下回る結果となった。「授業を工夫していると回答した教職員は100%。授業が工夫されていると感じている生徒は1年生76%、2年生80%、3年生78%、保護者75%でいずれも前年度を下回った。「基礎学力がついた」と回答した生徒は1年70%、2年62%、3年72%、保護者63%、教職員43%であった。教職員と生徒、保護者間に乖離がみられた。

イ 生活指導について

全職員が集団生活におけるルールやマナー、あるいは規範意識などを積極的に指導することは重点目標の一つであり、数値目標を70%以上に設定している。結果は「指導している」とした教職員は86%。先生は十分指導している」とした生徒は1年89%、2年88%、3年81%で数値目標を上回った。

規則や生活指導については生徒の約85%、保護者の91%が納得していると回答している。

自転車マナー指導については、地域在住の方の76%に評価を得ている。山高生は自転車のマナーを守っていると回答した生徒は1年62%、2年54%、3年55%であった。

ウ 進路指導について

授業やガイダンス、補習、補講が進路実現に役立っていると回答した生徒は1年75%、2年73%、3年72%であった。進路に関する情報を積極的に生徒に伝えていると回答した教職員は88%、生徒の進路意識を啓発する指導をしているとしたのは91%であった。関連項目を生徒、保護者でみると、進路情報の提供やアドバイス十分であるとした生徒は1年75%、2年81%、3年79%、保護者68%。進路指導は1年から計画的に行われていると解答した生徒は1年85%、2年73%、3年63%であった。

エ その他

学校生活は楽しく充実していると感じている生徒は1年84%、2年81%、3年80%、山高生としての誇りを持っていると回答した生徒は、平成25年度72%、平成26年度71%、平成27年度70%、であった。山高に期待するものとして学習をあげている生徒は1年52人、2年54人、3年36人であった。一番多かったのは、体育祭をあげた生徒で1年119人、2年130人、3年131人であった。いじめ防止に取り組んでいると回答した生徒は1年74%、2年63%、3年75%で保護者は76%あった。

(5) 評価結果の分析・考察（学校及び校長への意見・提言）

ア 「学力向上」についての組織的な取り組みの実施

すでに取り組みが開始されている指名補習や、計算テスト、希望者に対する補習など決め細やかな対応を学校全体で実践し学力向上を目指して頂きたい。毎日の学習時間を増やすために課題や、宿題

などを充実させる指導をお願いしたい。

イ 「規範意識」についての組織的な取り組みの実施

自転車マナー・バス乗車マナーなどについて、改善すべき点については今後も粘り強く継続して指導して頂きたい。また、以前より行われている地域行事へのボランティアとしての参加や、引き続きオリンピック・パラリンピック教育や日本の伝統・文化の良さを発言する能力・態度の育成事業などを通して生徒の健全育成を図って頂きたい。生活指導の厳しい山高を維持するためにも、先生方の統一した指導体制が今後必要であると考えている。

エ 施設の改善の実施

施設の老朽化ですぐには、全てを改善するのは難しいと思うが、建物やトイレを改善することでマナーが良くなり物を大切にすることにも繋がるので少しずつでも改善していくをお願いしたい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

（1）学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

有識者の方、同窓会、PTA、地域の方とそれぞれの立場からの意見をいただき、課題を改善の手立てを考察することができた。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・家庭学習が習慣化されていない状況は、中学校も同様であることからその改善にはさらなる工夫が必要であること。
- ・災害時の地域貢献のあり方の具体的なプランの構築が急務であること。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

（1）学校運営

- ・生徒、保護者、地域、関係機関に対して、積極的に学校の教育活動を広報し理解と協力を得る。
- ・地域に対して本校の教育活動における様々な情報を発信し、地域に開かれた学校にする。

（2）学習指導

- ・基礎学力の定着や分かりやすい授業について、教員の意識と生徒の授業の理解度・満足度とに約30ポイント以上の開きがある。生徒の授業評価に対する分析を進め、教員の授業改善に努める。

（3）特別活動

- ・学校行事の達成感や部活動の充実感が生徒の自信となるよう指導していく。
- ・地域貢献活動、ボランティア等、地域行事への積極的な参加を促し、地域に係る機会を充実させる。

（4）生活指導

- ・学校行事やHR等あらゆる機会を通して、規範意識を高める指導を継続していく。
- ・周辺地域との連携を図るとともに、自転車乗車マナーや公共マナーの徹底を図る。

（5）進路指導

- ・「進路指導の手引き」を改訂し、3年間を通したキャリア教育や新教科「人間と社会」の体験活動（インターンシップ）を実施し社会人基礎力を養う。
- ・学校や教員の進路指導情報、アドバイスを保護者にもわかるように提供、発信する。
- ・進路情報を積極的に得るための教員向けガイダンスも継続して実施する。

（6）健康・安全

- ・スクールカウンセラーと連携したこころのケアをさらに充実させる。
- ・セーフティ教室を効果的に実施し、生徒の安全・健康の向上を図る。
- ・美化週間を定期的に設定し、学校環境の向上を図る。

6 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

実績：両会議とも協議委員の参加なし

7 その他

- ・災害等における連携を含めて、本校と地域の方との協働に関する具体策についての協議を行う。
- ・ホームページや校門掲示板等により今後もより一層の情報発信に努める。